

社会構造論2005-4

- 1 社会システム概念の問題
 - 2 社会階層構造

社会システム理論によせられる批判

- 社会的有機体説批判：
- 社会システムは有機体システムとの同形性という起源を持つが故に、均衡論的に表象される。有機体の場合は成長—死、社会にそれはない。病気に相当するようなものを社会に見ることは可能か。 構造変動による適応
- 社会紛争、社会変動に結びつく社会内部の運動が社会全体の維持を損なう機能障害とみなされる危険性がある。 社会病理論

社会病理・機能障害論

- 既存の、或いは理想的な社会状態を想定して、そこからの逸脱を問題化する志向。
- 身体の異常は医療の対象。社会の異常は何の対象？。 逸脱的行為をなす人々：医療・矯正的社会施設の対象に（政治犯等）
- こうした逸脱的行為の作られ方をめぐって、ラベリング論、問題の社会的構築論がある。

ラベリング論

- 逸脱の社会的認識は権力を掌握した社会集団による差別化の結果、劣者に与えられたスティグマ(烙印)・制裁によって知られる。
- 弊害:「悪の劇化(様式化)」「予言の自己成就」「第二次逸脱:アイデンティティ・生活様式の組みかえ」
- 下記の概念はラベリング?
- NEET、パラサイト・シングル、カルト、他

ラベリング、機能障害論は悪い？

- 1 少数者への差別を告発する場合はOK
- 2 離婚、デモ、紛争・戦争は機能障害？
- 3 但し、健康 - 病気 5割方の人が病気であつたとしても健康を理想としてもよい
- 社会的理想や規範的概念を述べる際は必要：法体系・人権論 善/悪
- よいらベリングはあるか？

社会問題の構築

- 1 今だ「逸脱・問題」とされていない現象
- 2 事件の発生、メディアの注目、批判が起きる
不都合、理不尽な処遇を告発
- 3 社会的注目 人々の規範意識が動く
- 例：振り込め詐欺、カード詐欺（対策は個人の責任から、金融機関の責任へ）
- 新しく構築されてきた社会問題の例？

社会の構造化、相互作用論への補足

- 象徴的相互行為論 関係の生成 但し、大半の社会関係は、予め決められた筋書きをなぞるものが多い
- 地位(role)と役割(status) : 既にある筋書き : 行為への規範的要請 : 社会化(役割取得)の過程
- 社会構造 : 役割群(一つの地位には複数の関連する役割がある)
- 時に齟齬 : 運転手役割と救助役割

社会階層構造

- 社会的資源：富・勢力・威信・知識は社会成員に平等に配分されているわけではない。
- 階層的構造はシステムを維持するのに機能的？ 西欧近代主義の理念と齟齬
- 1 個人のレベルでは、機能的な重要性が高く、その遂行能力を身につけることに労力を伴うものにはそれ相応の報酬が支払われなければ、誰もそれをやらないであろう

- 2 現代産業社会における職業的地位、報酬の配分は機能的配分と見なすことが可能であろう。職業に貴賤なし、しかし、機能的重要性には差がある。
- これは妥当であろうか？
- 例：農林漁業の労働生産性(収益換算)のあまりの低さ(環境維持システムに貢献大)、他方、ホリエモン式M&Aの収益構造は資本主義の社会システムに適合的 大学教師？

非機能的配分と不平等

- 報酬：機能によらず、特権、抗争による配分。端的には法律的・慣習的に制度化されたもの（年齢、性別、人種・民族）。
- 社会的資源の配分 維持：家族・親族単位で保持 = 家柄、同一グループで保持 = 特権階級を形成：身分、経済的階層の再生産
- 不満を持つ者：下克上、革命、千年王国

- 不平等状態を納得させるためには、力づく(権力)、倫理的正当化(宗教的起源の神話創造)、メリトクラシーのいずれかで説得
- Meritocracy 業績主義(achievement principle) vs. 属性主義(ascription principle)
- 業績の属性化: 学歴、公務員試験
- 弊害と、生涯を通じた競争の回避の利点

- 階層化された社会: 人権思想、平等主義が普及するにつれて、社会に不満が蓄積される

- 社会的平等を達成することが、社会政策の課題：
- 1) 機会の平等？
- 2) 結果の平等？
- 3) 集団的平等？

- 近年の階層変動：社会的地位の非一貫性の行方
- 資産格差社会へ 1980-90
- 希望格差社会へ 2000 ?

